

Lady Reines's
favorite
Disciples

レディ。

ライネスの

愛弟子

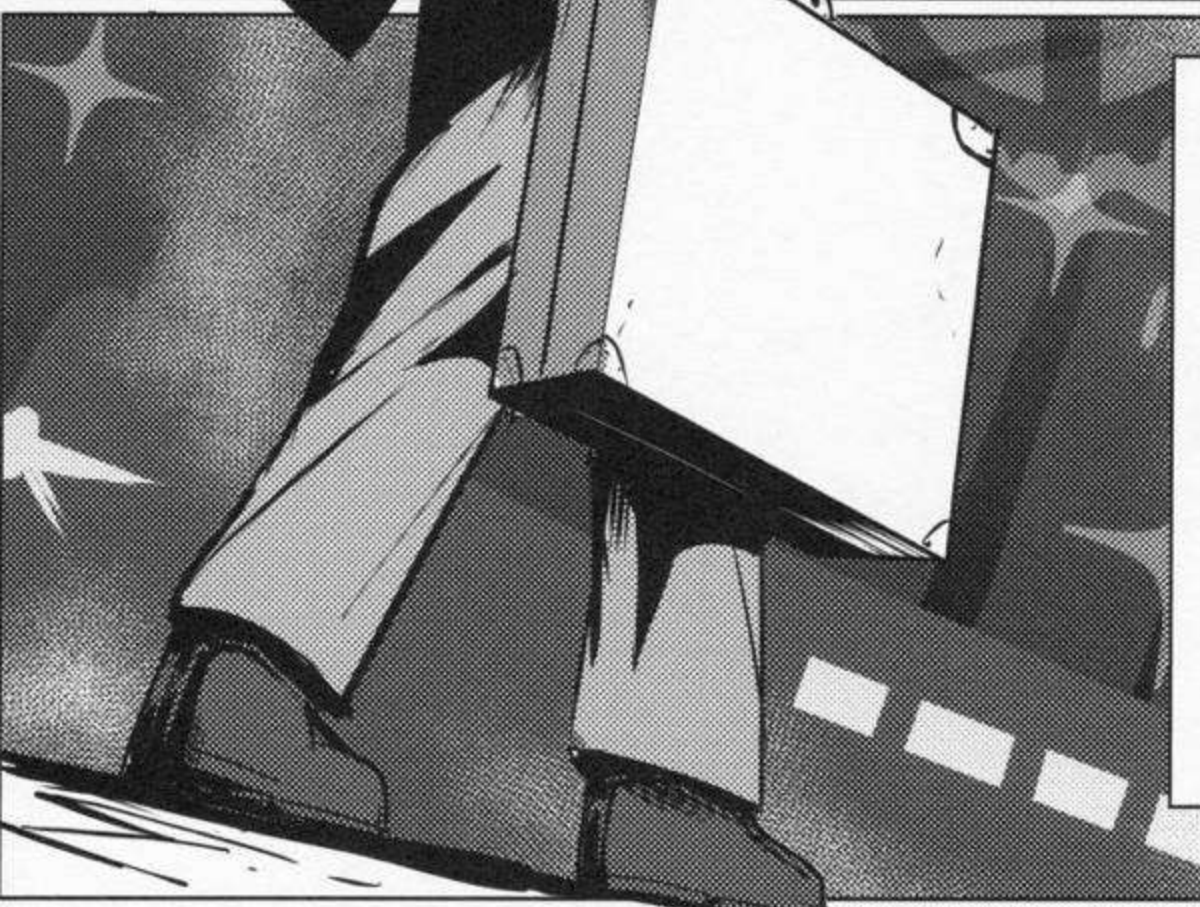
R18 Adult only
DOUJIN



今になって思えば
多分最初からだ



お客様
——
駅に着きました
お目覚めください



あの時二人で歩いた
パッチワークロンドン



……それこそ
初めて出会ったその
時にか——



……まったく
困った弟子だな君は
相手なら他にいくらでも
いるだろうに

俺はこの人を
好きになって

師匠はそれを
受け入れてくれた

あっ大人向け
だからそこは
あしからず

これはそこから
はじまるちよつと
した小話だ

好きです
師匠

彷徨海

るん

るん

我が世の春
である



いまだ異聞帯を
めぐる旅は終わらず
戦いは佳境を迎えよう
とはしているものの……



そこはそれ
色恋沙汰に興味は
尽きぬお年頃なのだ



ギョル
ギョル

要するに浮かれ
まわっている

あの……先輩
なにかとても良い
ことでも？

……後輩よ
それを聞いてしまおう
というのかい？

でも秘密さ
まあ多少っ
それなりに！



俺はもう
届いたのさ!!

るん

るん







ちよつと浮かれ
すぎました

ふふっ……まあいいさ
君が困っている姿は
それなりに愉しめたからね

相変わらず
性格歪んでますよね

そんな私を
大好きな我が弟子
も大概さ

それにクエスト
に同行する機会
はあったからね



我が弟子恋しさに
枕を濡らす……という
ことはなかったとも

……あの
つかぬ事を尋ねますけど

恋人ですよ
俺たち？

マスターがそう
言うならそうなん
だろうさ

えっ不安

あの……
二人きりで会うのは
久しぶりですし

恋人らしいこと
しましよう!!

ほう？



恋人らしい事とは
具体的にはどんな
行為のことかな

それは――



一緒にお出かけ
したり

クエストには良く
連れて行ってくれる
だろう

デートしたり

今している
じゃないか

いや茶会は前から
してたじゃないですか

ふむ…では――



子作りとか？



師匠っ!?!
あのですね



なんでしょ？

ほら我が弟子

お詫びと言っては
なんだが……



いやすまない
君を困らせたくなる
のは性分でね



……言わなくちゃ
わからないかい

あーん……
だとも♡



それで……
セックスの話
だったかな



……おいしい

それは結構



恋人らしいこと
がしたいんだろう？



ゴ
ッ



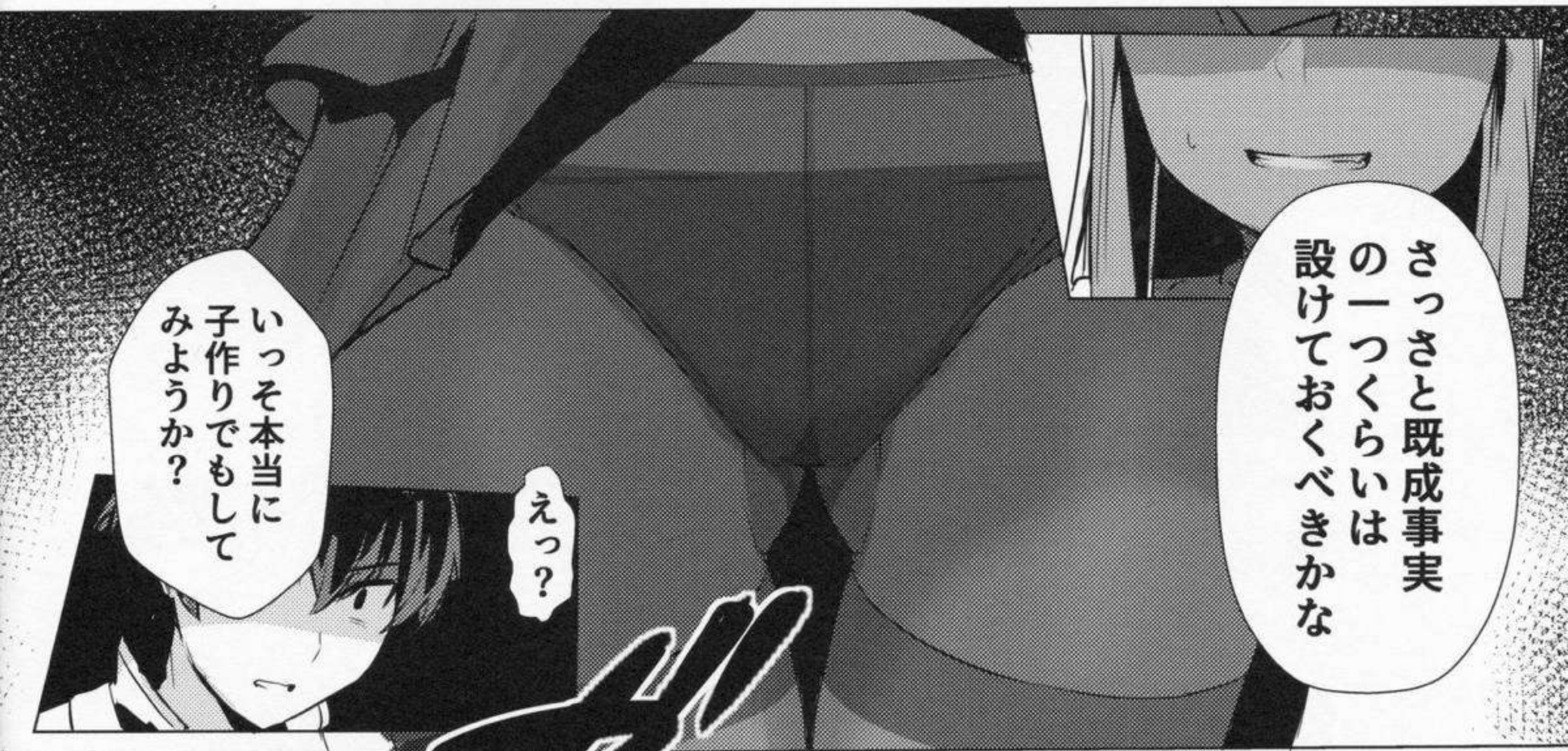
まあ私も少し
考えてみたんだ

君の周りは
少しばかり賑やか
に過ぎるからね

ここ数日様子は見させて
貰ったが……油断ならぬ
のは確かだ

……ん？

ケホッ……



さっさと既成事実
の一つくらいは
設けておくべきかな

いっそ本当に
子作りでもして
みようか？

えっ？



ちよ——
!?



——なんてな
君の反応は素直
でいい

あんまりそういう
冗談はどうかと思う
んですけど……

別に丸つきり冗談
というわけでもない
のだがね



……そうだな

どのみち
サーヴァントの
身体だ

マスターが望むなら
抱かれてみるのも悪く
はないさ

マジですか



とはいえ
周囲の目というのは
厄介なものだからね

いざ事の最中に
踏み込まれても事だ
どこか良い場所は
ないものかな？

え？
致す方向で
話進んでます？

——
大マジさ

注意するべきなのは
他のサーヴァントたち
だろう

エライことにな
った……

カルデアでは実体化
している者がほとんどだが
霊体化だってできる
わけだからね。

人払いの结界？
ここではむしろ逆効果さ
コソコソ何かしてます
と宣言するようなものだよ

基本的にサーヴァントに
とって用のない場所

たとえばカルデア職員用
のトイレとかね

それでいて職員も
あまり利用しない
ような立地が望ましい

まあでもどうせ
また質の悪い
冗談かな

ばれてしまったら
それまでさ

それはそれで
おもしろ……
いやなんでもないと
も



!?

——来たか
我が弟子

……
本気ですか？

おいおい……
女の子がここまで
してるのに疑うのかい？

……
ッ





…本当に

いいんですね
師匠

みなまで言わせるなよ
私がいいだしたことさ



……っと
もうこんなにな
っているのか

想像でもしたか？
まあどうせ童貞
なんだろうが



あつ……

ご開帳だ



これは…
思っていたよりも



ボロン

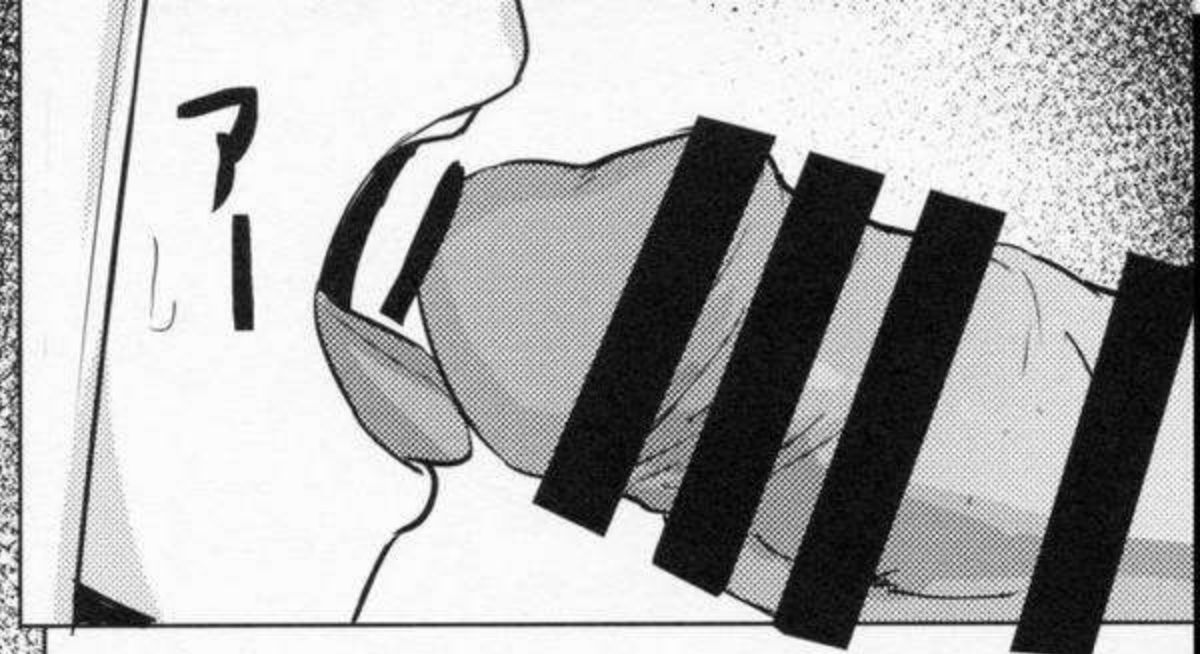


我が弟子はこれで
私をどうしてくれる
つもりだったのかな？



顔に似合わず結構なモノを
ぶら下げてるじゃないか
小柄な私にはキツそうだけど







つかのまに
しなびて萎える
男心かな
藤丸立香心の一句

ボケるな

勝手に逝っていい
なんて許可した覚え
はないぞ

いやでも
もう……

もう少し
頑張りたまえ
早すぎるのは
嫌われるぞ？

ギン

ぐく
ぐく



君にとっても
せつかくの初めて
なんだ……



サーヴァントでは
残念ながら子作り
とはいかないだろう
けどね？



無駄うちするのは
勿体ないというもの
だろう

ああ……でも
私は擬似サーヴァント
だからね

もしかすると
普通ではありえない
間違いがあるかもだ♡

せっかくだ
試してみたまえ
人類最後のマスター

君の魔術回路は
ゴミみたいなものだが……
形はどうあれ七つの特異点
を越え一度は人理を
救ってみせた

びっ

あるいは次代の
エルメロイの種として
相応しいかもしれないぞ

我が弟子？



師匠はなんで
そうー

アハハハ...

人を挑発するような
ことばかり言うん
ですか



ミチ





声……
おさえられ……

激しい…
今出したばかり
だろうに…





それから
— というもの



……本気
になりすぎだ
馬鹿弟子め

……本気
になりすぎだ
馬鹿弟子め





俺から求める
こともあるし

俺と師匠は
隠れて身体を重ねる
関係になった



俺が忙しくて
なかなか時間が
とれずにいると

たまにだが師匠から
求めてくることもあった

そういう時
師匠は強く抱かれる
ことを好んだ

——師匠が望むから中
にだすけれど……
やはり妊娠するような
様子はない

できてしまっても今は困る
話ではあるけれど
師匠は少し残念そうに話を
していたのが気になった



行為の最後には
いつもキスをする

なんとなく
それが恋人らしいと
おもったからか



身支度をととえたら
まずは俺がその場を
後にする

カルデアで普通に
会うときはただの
一人のマスターと
サーヴァントだ



おや……
肩にゴミが付いている
ぞマスター

ただお互いの
頃合さえ合うなら

身だしなみには
気をつけたまえ

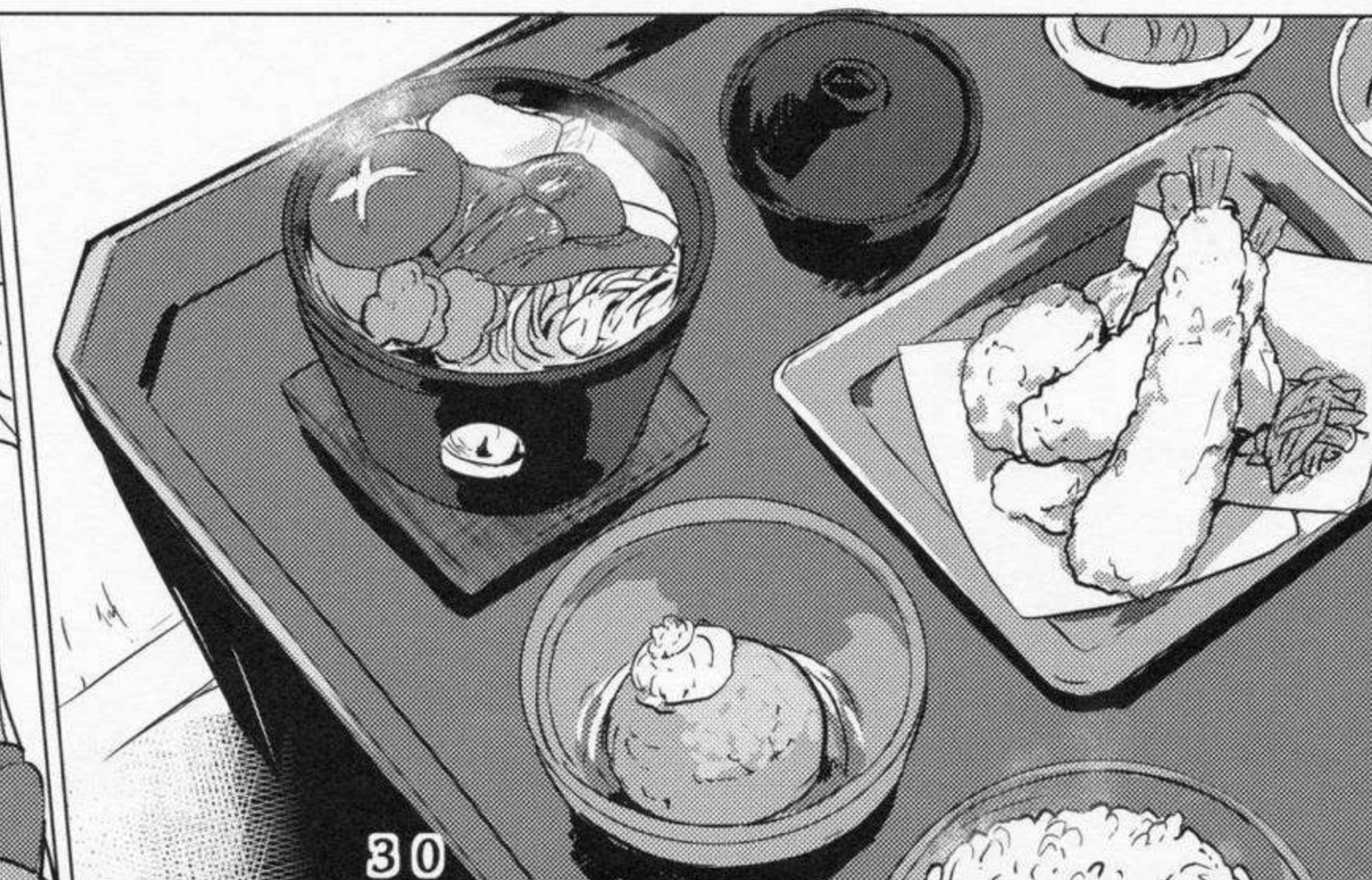
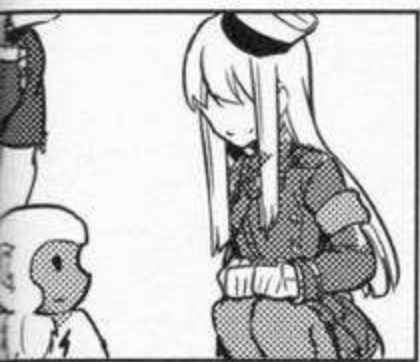
こっそりと次の
約束をするのだ







大切に思われている……か





変わった人だな
君は……



どうしてそうまで
良くしてくれるの
かな？

ずっと考えて
いたんだ


あるいはほんとに
子供でもできてしまえば
それでも良かったのだけど

やっぱりサーヴァント
の身では無理な話か

……
師匠？

一つきになって
いたんだ

君が私みたいな魔術師を
慕ってくれたのは
パッチワークロンドン
での思い出のおかげかな？



今の私に
そんな記憶はない
というのにね？



せっかくだ
一つ尋ねてみたいんだ
マスター



す、…
君が好きになった
女の子はかつてロンドン
で出会った女の子かな



それとも

今ここに
いる私
だろうか？

いつか消えてしま
えば後には何も
残らない

結局今の私はただの
サーヴァントさ

—だから
君との間に何か…
後に残るものが
ほしかったのさ

ちっ……くそ
変だなこんな…
私らしくもない

—最近
未来について考えるんだ



所詮私は擬似
サーヴァントで

こんな状態は
人理の曖昧な
今だけの奇跡だ



君は前に進み
続けて

きつといつか
終わりがくる



そうしたら
私は――

先のことなんて
知りませんよ

確かなことは
俺が師匠を好き
だってことです

……
でも私は

グイ
グイ……



でももへチマ
もないです

じゃあなんですか
全部なかったことに
でもするんですか？



今の師匠は
どうせ禄なこと
言いませんし

余計なこと
考えられない
ようにします

待っ



俺も傷ついてます

待ちません
師匠の意地が悪い
のはいつもですけど



ほら—
乱暴にされるの
好きですよ





イキました?
潮ふいてますけど



実はむっとりマツ
ですよね師匠



違っ

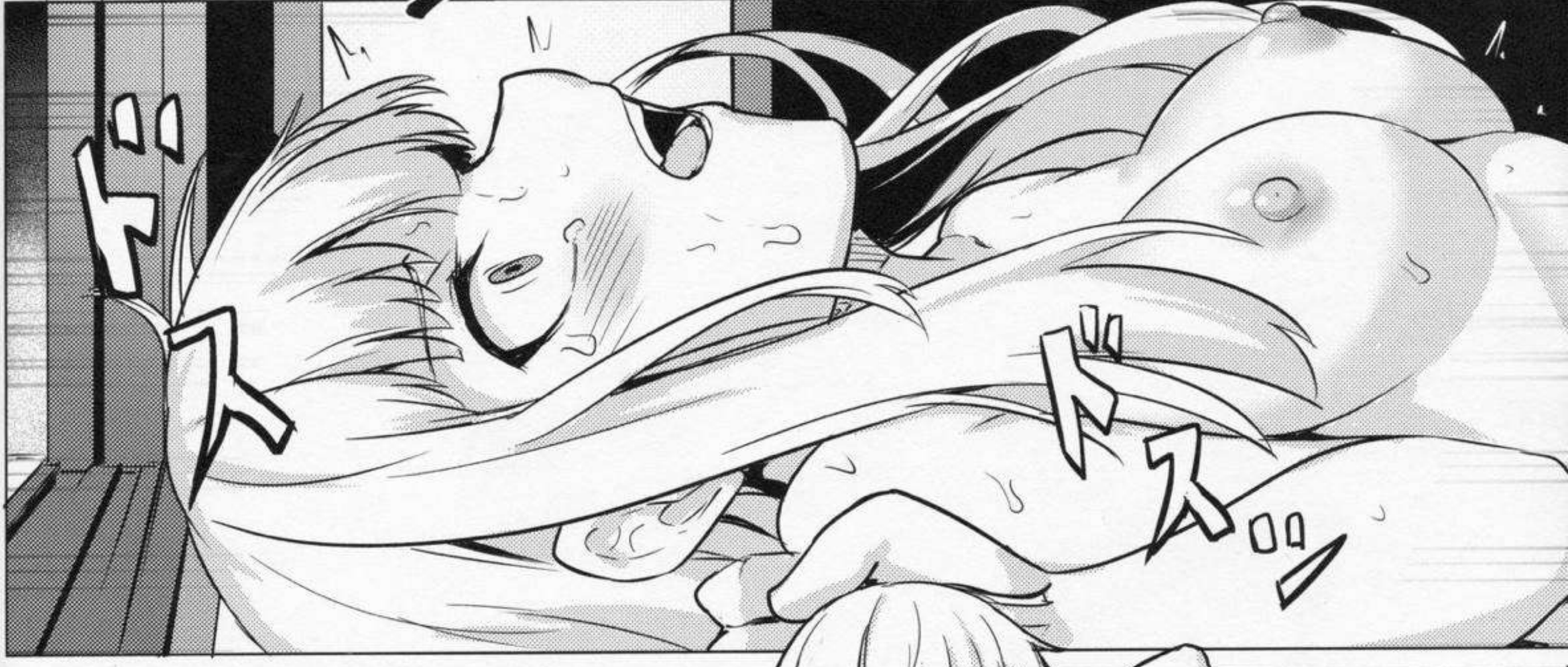


何が違うんですか
そんな情けない顔
さらして



ズッ
ここだって
ビショビショじゃ
ないですか







……俺結構
意地悪してる
自覚はあるんです
けどね

いつもより
締め付け強い
ですよ
キュン♡



意地悪されて
感じてますよね?

やっぱりマゾの
変態じゃないですか

普段お高くとまってる
のに一皮剥けばこんな
ものですか師匠



言わせておけばッ

ハッ
ハッ
——このっ
弟子のクセに



師匠ってロンドンでの
記憶がないのに
俺のこと弟子って呼び
ますよね

だから大丈夫ですよ
きっと——



……これは人の
受け売りなんです

一度弟子になったら
何があるかと
たとえ生まれ変わろうと
も弟子らしいので

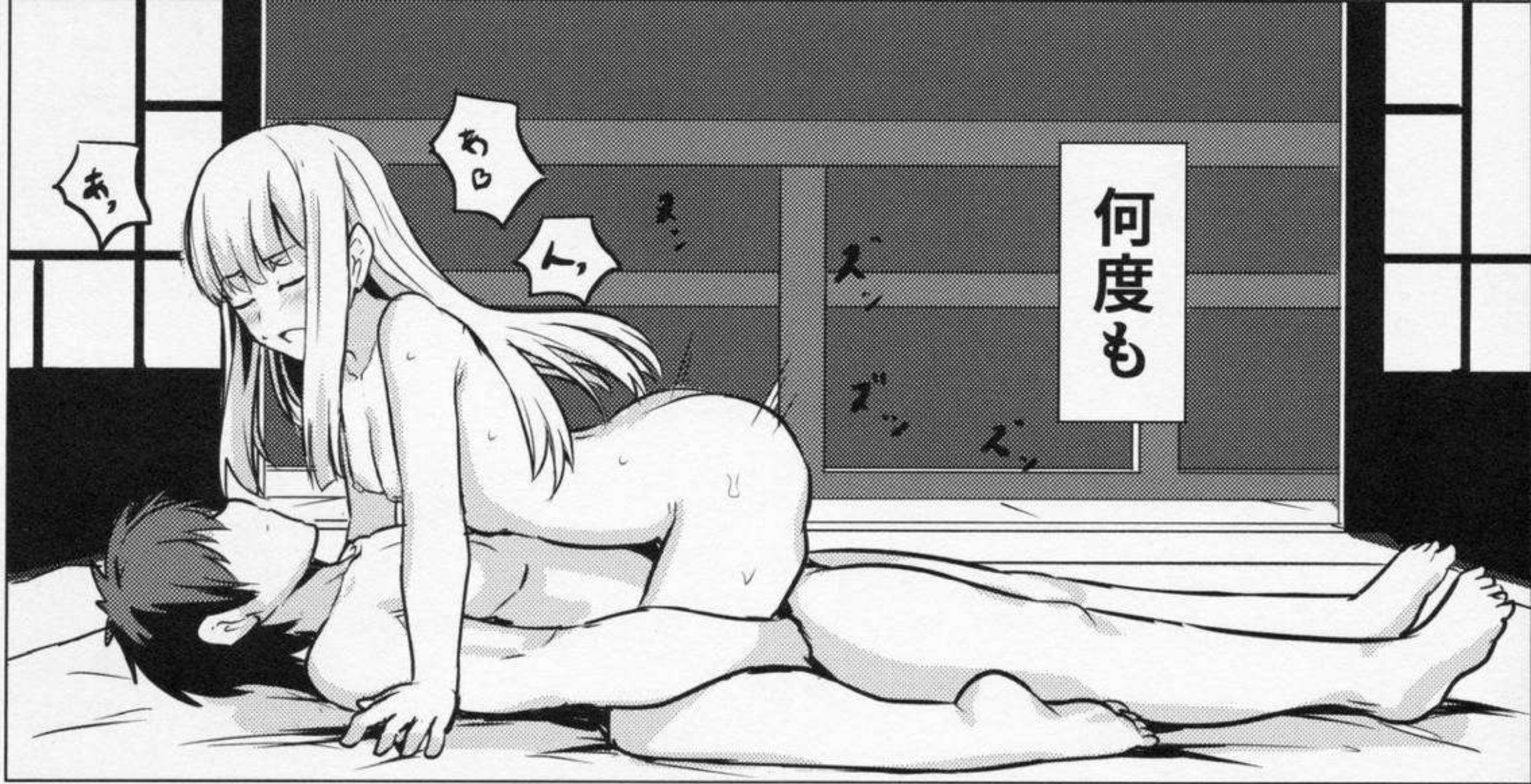


会いにいけます
何処にいても
何があっても

俺は諦めの悪さ
だけが取り得なので



——その夜
私たちは愛しあった





—時間も忘れる
くらいに

ドクッ
ドクッ

♡、♡

お♡



自分の物だと
主張してくるようで
ちよっと嬉しくなる

少し乱暴に
されるのも

ぽち

あ♡

ぽち



イクっ
またもう

俺もイキます
一緒にっ

……それはありえる
かもしれない可能性
の話だ

あ、♡

ビクッ
ビクッ
ビクッ

♡

♡

チュ

チュクッ

ニチュ

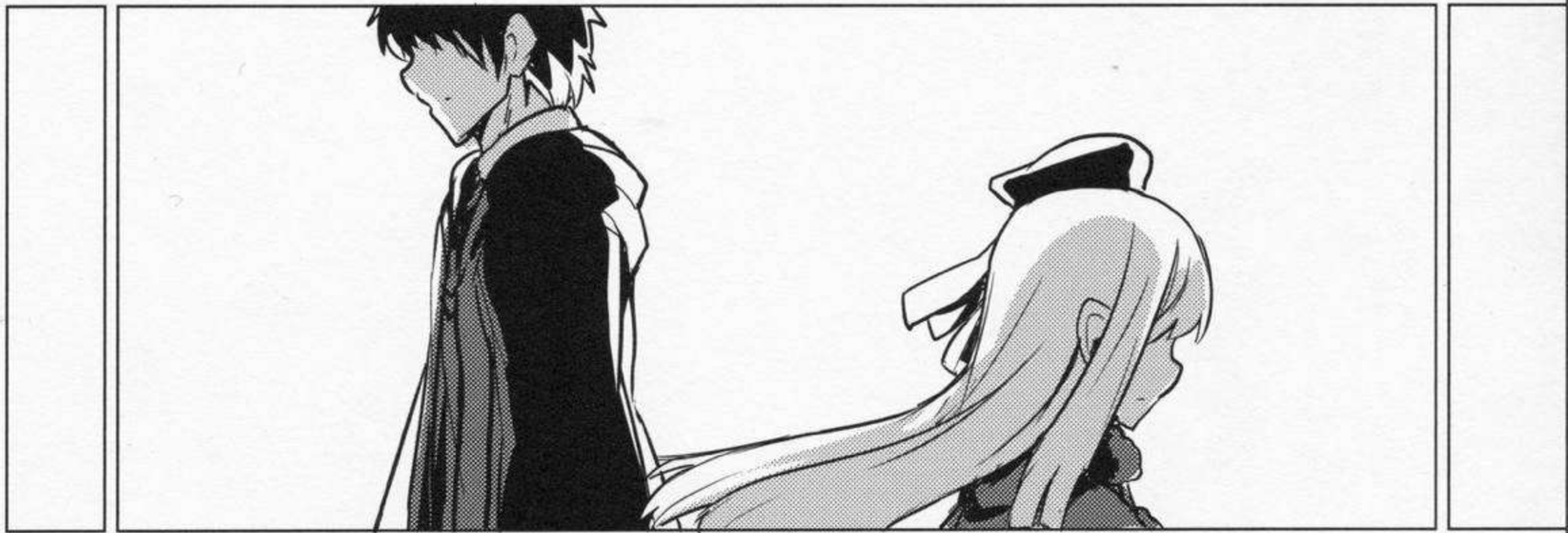
ニチュ

ニチュ

いつかどこかで



無数に枝分かれしていく
未来のどこか一つに――



そんな運命が
あってもいい



はじめまして俺は——



そういえば……
一度もきちんと伝えた
ことがなかったな

愛してる
我が弟子——



あとがき

それなりに余裕をもって作業していたつもりなのにいざ締め切り前になるとなぜか限界ぎりぎりになってしまう不思議。

あとがき書いてるいまはもう全然頭働いていないので、うまくお話まとまってるか不安ですが、ここまで読んでいただいてありがとうございます。

次はもっと早めに作業始めようと思いました。

毎度同じこと思ってる気ましますが。

奥付

2019/8/12発行

印刷 サンライズパブリケーション様

サークル御花畑 芝石ひらめ

連絡先 hirames232@gmail.com



御花畑

Fate/Grand Order fanbook
COMIK MARKET 96 2019.8.12